

汚れた「水」と「人間の心」

浦和実業学園中学校 一年 吉谷 ののか

家に帰り、手を洗うために蛇口を回すと水が出る。ボタン一つで空だったお風呂がいつの間にかお湯でいっぱいになる。このように、私たちは水があることを当たり前のように思い、水の大切さに目を向けてすらいらないことに気がつきました。私はこの機会に、人々が安全な水を得ることが出来ているかを調べてみることにしました。

すると、SDGsについて書かれた本を見つけました。SDGsとは、五年前の国際サミットで採択されたもので、一九三ヶ国が二〇三〇年までに達成するために掲げた、一七個の目標のことです。その一つに「安全な水とトイレを世界中に」といって、だれもが安全な水とトイレを利用できるようにし、自分たちでずっと管理していけるようにしようという目標があります。日本にいれば、安全な水が簡単に手に入ります。しかし、生活する地域や場所によって、安全な水の入手が困難な人たちがいるということを痛感しました。

水の惑星とよばれる地球には、だれもが安全な水を手に入れるだけの淡水があります。けれども、毎年、数百万人の人たちが、清潔とは言えない不適切な水のせいで発生した病気によって、亡くなっています。そして、そのほとんどは子供たちです。また、世界には、常に水が不足し、質の悪い水や粗末な水設備しかない状況で、約二億人の人たちが安全に管理されていない飲み水を使っています。この二億人という数値は、世界の人口の約三割にあたります。

そんななか、日本政府はこのような問題に対して、どのような取組をしているのでしょうか。インターネットで調べてみたところ、八年前の二〇一二年に「水エクスポ」が開催され、企業や団体関係者など約二万人が世界各国から参加し、水問題について意見交換が行われました。しかし、私は思いました。専門家が話し合ったところで水問題は解決されるのかと。私たち一人ひとりが行

動を起こしていかなければならないのだと。

水問題の原因のほとんどが台所やトイレなどから流れ出る生活排水です。特に水を汚しているのが、台所排水です。日常生活を思い返してみてください。例えば、フライパンについた天ぷら油をふき取らずにそのまま水洗いをしてしまったころはありませんか。もし、天ぷら油を流してしまった場合、魚が生きていける水質に戻すために必要な水の量は浴そう三三〇杯だといわれています。

では、もう一度考えてみましょう。水を汚さないために私たちに出ることはないかと。それは、簡単です。フライパンなどについた油は、キッチンペーパーなどで拭いてから洗う。ただこれだけです。このように考えてみれば、水問題について私たちが出来ることが明確になったのではないのでしょうか。また、他にも、台所排水に目を向けると、洗剤の量を最低限にしたり、排水汚れを三〇パーセント程にきれいにする効果がある、ストレーナーを排水口に取り付けたりすれば、水問題の解決に近づくことが出来ます。しかし、当たり前ですが、数人の力では到底、解決に至りません。だから、地球で暮らす人間一人ひとりが意識をして、行動を起こす必要があるのです。

私がこの作文を通して言いたいのは、ただ一つです。「水問題はもう、私たちの目の前まで来ている。だからこそ、一人ひとりが意識して行動を起こす必要がある。」ということなんです。私にとっても、あなたにとっても、水は、人間生活において必要不可欠な存在です。今こそ、行動を起こすべきなのではないでしょうか。